2026年9月11日

大阪市教育委員会事務局総務課様

要 望 書

大阪市内識字・日本語教室連絡会
代表 細見 新市

識字・日本語教室の活動にご尽力されていることに敬意を表します。

さて、大阪市内識字・日本語教室連絡会では昨年度教室見学を行いました。その中で色々な課題や要望が出てきました。また、当会の事務局会議で自分たちの教室で見られる課題も出し合いました。さらに今年の7月に行われた当会の全体会で意見を出し合い、それらをまとめて要望書として大阪市に提出することとしました。

以下の13点にご対応くださるようお願いします。

課題① 故障等に対してすばやく対応してください

コピー機などの故障や不調を教育委員会に伝えても、すぐに対応に来ていただけませんでした。その結果、1ヵ月以上コピー機が使えない状態がありました。また、コピーをしても薄い印刷状態が続いているところもあります。また、空調施設が不十分な教室もあるときます。教室を頻繁に訪れるなど、ぜひ実情を知っていただき、すばやい対応をお願いします。

＜教室参加者の具体的な声＞　※以下の②～⑬の項目についても同じ形式で表記

「教材は学習の大切な道具。コピー機は必需品」

「教室で困っているときはすぐ対応して!」

課題② 文集作成に関わって、ていねいに対応してください

大阪市内には、積極的に文集を作成し活動を充実させ、他の教室との交流に役立てようとしている教室があります。文集は参加者の励みになり、教室が何を大切にしようとしているかを端的に示す大事な存在です。ところが、文集の原稿を集めて教育委員会に提出しても、校正の機会をとってもらえず内容を教室でチェックする機会がなかったり、せっかく印刷された文集の文字が薄くて読みにくかったりするという例があります。文章を書いた学習者の思いをもっと大切にして、しかるべき質を確保して印刷するようお願いします。

「識字の文集なのに色がうすくしあがりとても見づらく、かなしかったです」

課題③ 教室から求めた物品や本をもっと早く用意してください

いくつかの教室から上がってきたのは、教室からの物品要請に対して対応が遅すぎるということです。文房具などの物品を大阪市教育委員会に求めても、数ヶ月から1年間ほど遅れて教室にその物品が来るような状態です。そのため、求めた物品が届いたときにはす

でに不要になっている場合があります。これでは、物品も粗末に扱われたことになります。なにより、学習を求めている学習者の願いがないがしろにされているということです。教室からの物品要求には迅速に応えるようにしてください。

「注文してから教室に届くまで1年待つこともあります」

「注文してから本やテキストが届くのがおそい。来たころに使う予定の人がいなくなっていることがある」

「活動報告書に要望を書きましたがレスポンスがありません。消耗品はできるだけ早く対応してください」

「その時に必要な本、物品がすぐ入手できないのは不便です」

「今何が必要かというのはどんどん変化していきます。それに対応できないのは困ります。全てでなくても、自由に使えるお金（予算）を。」

「今すぐほしい品物や本は各教室で買えるようにしてほしい」

課題④ 学習希望者に対してきちんと対応してください

学習者の多くは、会話や読み書きやの面で困難を抱えています。ところが、大阪市教育委員会の対応は、そのような学習希望者に的確に答えるものとなっていません。たとえば、日本語が得意でない学習希望者が大阪市教育委員会に電話で問い合わせても、通訳を置いていないため、学習希望者は対話が成立せずに困っています。また、学習希望者の要望する内容に対応した教室が紹介されず、ときには教室に知らされないまま突然に学習希望者が教室にやってきます。その場で受け入れることができず、学習希望者が残念な思いで帰っていく姿があります。学習希望者の要望を的確に受けとめて、教室との連絡を十分に取りながら教室を案内するよう求めるものです。

また、毎回の教室の報告書に学習者の募集をしていることを記入しているのにもかかわらず、学習希望者への案内がされていないことが担当者とのやり取りで今年度明らかになりました。約40人、最長約2年間待機の状態になっていました。学習者の受け入れについては、オンライン対応が難しい学習希望者への配慮不足など様々な課題があります。改めて、各教室で起きている課題を収集して整理をし、原因を明らかにして、問題解決を図ってほしいと考えます。

「識字学習者を掘り起こしてほしい」

「識字に行く時間がない、識字の時間を増やしてほしい」

「スマホでポチッポチッしてくださいと言われました。希望がかなわない時などの相談ができないのは不便」

「多くの希望者が空きを待っておられる。何とかしたいといつも思っているが、市の具体策を広く知らせてほしい」

「学習希望者が直接教室に来られることがあり、断らざるを得ない。生涯学習部や総合生涯学習センターを紹介しますが対応してもらえているのか心配です」

「対応の難しい言語しかできない学習者に対してどうしたら対処できるのか」

「学習希望者に対してどのような基準で受け入れを決めているのか？」

「進路を希望する18才以上の海外ルーツ（渡日）の人への選択肢を広げてほしい」
「学習パートナーの人数が増えると良いと思います」
「私は教室希望の申し込みをして、1年以上待ちました」

課題⑤ 日本語の入門講座を充実させてください

学習希望者のなかでも、とくに日本語を初歩から学びたいというひとに対する対応が遅れています。大阪市の識字・日本語教育基本方針（P30<方向性1>①）にもあるとおり、初めて日本語を学ぶ学習者は、識字・日本語教室で対応するのではなく、専門性を持つ学習の場で対応するのが原則です。実際受け入れている教室では、日本語が少しできる学習者が通訳をして何とか対応しているものの、通訳をしている学習者の負担になっている例もあります。それにもかかわらず、大阪市教育委員会は、日本語の会話ができない学習者も教室に振り向けたり、対応を求めたりしています。また、初歩の講座の募集があってもすぐに定員になり、学習希望者が受講できない状況も続いています。まずもって、日本語を初歩から学べる講座や教室を拡充して、希望者が安心して学べるようにするべきです。また、その講座を終えた人たちに対して教室を紹介するにあたっては、教室の状況に応じて対応するべきです。

「ふだんよみかき教室をしている学校や施設で開いてください」
「家から電車をつかわずかよえるところでひらいてほしいです」
「漢字の学習がもっと出来るように時間を作ってほしい」
「日本語の入門講座は基本なのでカリキュラムの作成が必要ですね」
「講座のようすを教えてほしい。ホントに役立っているのか」
「『行った』という人に出会ったことがない」
「日本語の基礎が全くない学習者が来られた時対応に困ります。初心者向けの講座も定員がすぐ一杯になるようです」
「大阪市内版の日本語交流学習のガイドラインや参考書一覧を配ってほしい。」
「入級希望の待機者が多いと聞きます。教室数の増設、ボランティアの確保と待遇の改善をしてもらいたい」

課題⑥ 教室内で起きたハラスメントや人権侵害にきちんと対応してください

残念ながらこの間、大阪市内の教室で差別事象やハラスメントがくりかえし起こっています。2019年以後だけでも、大阪府内の交流の場で発生した差別事象は、そのほとんどが大阪市内の教室に関わる人たちによるものです。「識字・日本語教育基本方針」では、「めざすべき姿」の第1に「人権に根ざした教室運営」があげられているのです。また、よみかきこうりゅうかい実行委員会で出された「識字・日本語学習の場での差別事象への初期対応について」（差別事象対応マニュアル）には、基本的な対応のあり方が示されています。教室などから人権侵害やハラスメントの報告があったときには、教育委員会が直接に関係者のところに出向いて話を聴き、事実を確

認し、実態をとらえて、問題の性格や原因を整理して、教訓化・教材化を進めるよう求めます。

「パートナーによるつきまといをやめさせてほしい」
「オンラインのやりとりについてルールを決めてほしい。ハラスメントになったことがある」
「教育委員会として禁止事項をはっきりさせ、全教室に知らせてほしい」
「教育委員会として対応原則を広く知らせてほしい」
「ハラスメントとわかればよいですが、ジェンダー、女性差別につながることがあたりまえのようにおこっていることに気づけていない」
「『人権侵害』とはどういうことか学ぶ機会がほしい」
「教室単位でハラスメントや人権の研修を実施できるとよいのでは?」
「LGBTQ にかかわる研修をやってほしい」
「ハラスメントを訴える窓口を委員会とは別につくってほしい」
「学校がもっと関ってくれるよう教育委員会から学校に働きかけてください」

課題⑦ オンライン学習についてどうしていくのか示してください

教室の中にはオンライン学習を行っているところがあります。オンライン学習の要望があったときにはオンライン学習をしている教室を紹介するなどの対応を教育委員会でもしています。このような状況の中、オンライン学習に関連してセクハラ行為などの問題が発生しました。ボランティアが運営する教室でオンライン学習をすることは果たして望ましいのかという意見がある一方、今の社会状況ではオンライン学習は必要であるという意見もあります。このような課題がみられる中、今後オンライン学習についてどのように進めるべきか課題を整理し、基本的な方針や対応の原則を打ち出してください。

「高齢の方にもわかりやすくできるタブレットの活用方法を教えてほしい」
「Wi-Fi を学習の部屋に入れてほしい(委員会にも緊急な連絡ができるのではないか?)」
「コロナ感染拡大のような時には(オンライン学習も)必要だったかもしれませんが…」
「識字教室には(現在ある)オンライン学習は必要ではないと思います。実際に対面、対グループが基本だと思います。」

課題⑧ 学習パートナーが増えるようボランティア入門講座の開き方を工夫してください

識字・日本語学習ボランティア入門講座では、毎年100人近くが参加しているにもかかわらず、大阪市内の識字・日本語教室のボランティア数はそれほど増えていません。原因の一端は、講座の一環として行われる教室見学が、総合生涯学習センターや難波・阿倍野市民学習センター中心に行われていることにあります。ボランティアを必要とする教室への見学があまり位置づけられていないのではないでしょうか。そういうなか、2025 年度のボランティア講座の一つは、浪速の教室を会場として開催されました。これは意味のあ

る企画であったと言えます。ボランティア入門講座が教室の求めるものに合致するように、今後も、積極的に企画するようにしてください。

「今はほぼパートナーのロコミで増やしているような…」

「ボランティア入門講座がどこでどのように開かれているかわからない」

「教室ごとにボランティア入門講座をするのがよいと思います」

「部落のことを講座で学んだ学習パートナーにもっと来てほしい」

「学習パートナーの日本語指導を学べる環境をつくってほしい」

「ボランティアの方も何から始めたら良いのかとまどうので、ボランティアの方のサポート体制が必要」

「入門講座というよりも、ボランティアだけで集まって学習者への対応の仕方など話し合いの時間を作っても良いと思います」

課題⑨ 識字の考え方をちゃんと伝える教室づくりをすすめてください

識字・日本語学習基本方針にもあるとおり、大阪市では一貫して識字と日本語の学習を一体のものとして取り組んできました。それにもかかわらず、基本方針以後の大阪市の事業展開では、識字が抜けて日本語だけになっている例が多いといわざるをえません。港区や東淀川区の新教室は、「外国ルーツの若者」に焦点を当てて準備、開設されています。大阪市教育委員会が出している講座の案内やチラシでは、日本語教室に焦点が当てられ、識字教室の視点がないがしろにされています。大阪市は、全国の政令指定都市でも突出して不登校児童生徒が多いことが知られています。

大阪市教育委員会は、そういう問題にも対処する責任があります。それにもかかわらず、「外国ルーツの若者」に焦点を合わせる教室を開設するのはなぜでしょうか。取り組みが日本語教育に偏らず、識字活動の精神や人権の視点を大切にする教室づくりをすすめるようしっかり示してください。

「識字はどういうところかボランティアとして参加する前に学習する機会が必要」

「とても難しいと思う。日本人にとっても難しいと思う。外国人にどのように伝えるのか、それ以前にボランティア自身が学習すべし」

「なんで識字ができたかをもっと広く伝えてほしい」

「日本語学習以外で学習を必要としている人に教室のことが伝えられていないと思います」

「識字に50年以上通う方の思いを聴く場を作ってほしい」

「識字に特化したホームページを作れば考え方を伝えられると思う」

「初期の日本語学習に『識字の考え方』をどのように組み込めるのか」

「新しく作る（作った）教室の案内チラシに、識字・日本語教室であることをしっかりわかるように表記してください（これまでのチラシと同じように）」

「学習希望者には単なる日本語教室と思って来られる人がたくさんいます。誤解が出ないよう、学習者募集内容の表記を改めてください」

「識字・日本語教室と日本語教室の違いは何ですか？」

課題⑩ 教室の特別な活動や、学習者・学習パートナーの交流のために必要な予算をつけてくだい

教室での調理活動など特別活動において、学習者の持つ文化を知り人間関係を育む機会となっています。また、他の教室の活動に直接触れることによって、教室は活発化します。大阪市教育委員会でも教室間の交流をよびかけています。しかし、今のシステムでは特別活動や交流活動に必要な経費がほとんど計上できません。大阪市教育委員会として交流活動や特別活動に関する経費を予算化できる方法を整備してください。また、当連絡会主催の全体会においても、たくさんの学習者、学習パートナーの交流や学びが生まれています。これについても会場代など予算措置をしてください。

「他教室と交流したり教室の外に出て学びたい」

「教室（が開かれている時間帯）以外の交流会を増やす」

「教室間の交流ができるように予算があったら機会が増えるのに!」

「交流会、飲食の費用も出してもらえたらありがたいです」

「東大阪市では連絡会に年間150万円くらい出ています」

「八尾市では毎年、バスを2台かりて全教室交流学習としてどこかへ出かけています。予算は市からでます」

課題⑪ 学習パートナーに必要な予算措置をしてください

現在、コーディネーターに対して謝礼金は出されているものの、金額は以前と比べて大きく下げられてきました。コーディネーターが担っているものは決して減ってはおらず、むしろさまざまな対応が求められ大きくなってきているにもかかわらず、減額されています。さらに、現在3つあるモデル教室の学習パートナーには全員謝礼金が出されていると聞きます。多くの教室には、学習パートナーの交通費すら出されていません。 ほぼ同じような状況にあるのにこのような差がずっと続くことに問題はないのでしょうか。モデル教室にボランティア希望が集中しているのも、それが原因の1つではないでしょうか。これからの日本の多文化共生社会づくりを考えるうえで、識字・日本語教室が果たす役割はとても大きいものです。それを善意に頼るのではなく、しっかりと支える体制づくりが必要になってきています。文化庁から識字・日本語教室に関する予算が大幅に増額されているなか、必要な予算措置をしてください。

「銀行口座を開設したい、手伝ってほしいといわれました。言葉の壁もありたいへんでした」

「年齢、性別、資格を問わないボランティア募集ですが…ボランティア教育がボランティア（各教室）に任されている現状がある」

「学習支援員が少ないと学習者も不安になるので早急に対応してほしい」

「学習パートナーに交通費支給を」

「学習パートナーに対してせめて交通費の実費だけでも支給してほしい」

課題⑫ 総合調整会議の設定や内容を計画的にしてください

総合調整会議の日程調整が遅く、しかも、多くの委員が参加しにくい日程で決められています。自治体によっては半年前に調整が行われ、十分な委員の参加も得られているときいています。大阪市の総合調整会議は、内容面でも計画性がなく、場当たり的な印象を受けます。委員の選出方法にも疑問があります。これはひとえに基本方針が出されている一方で、それを具体化するための行動計画を策定しようとしていないからではないでしょうか。総合調整会議を計画的に実施するためにも、識字・日本語教育基本方針をふまえた行動計画づくりをすすめ、その一環として総合調整会議を位置づけるようにしてください。

「会議は参加者が自分の意見を言うのが精いっぱいで、議論には至っていません。2 時間、年2回では少なすぎます」

課題⑬ 大阪市識字・日本語教育基本方針をふまえて、参加者の声を大切にした行動計画をつくってください

以上の事柄すべてに関わりますが、基本方針ができたのにそれに則してさまざまなことが進められていません。その大きな要因は、行動計画が策定されていないことにあると考えています。早急に行動計画を策定してください。そのさいには、学習者をはじめ、識字・日本語教室関係者が参加して発言できるようなワークショップを行うなどして、関係者の声を大切にしてください。

「行動計画をつくってすすめないと公の予算が思いつきで使われているように感じます」